

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*焦点を合わせるための厚板を収蔵

今回の収蔵品は、「焦点を合わせるための厚板」と書かれた写真乾板である。おそらくオリジナルの焦点板があり、それを写真乾板に密着焼き付けをしたものと思われる。この焦点板は写真1の東京天文台の洋封筒に裸で入れられていた。封筒の表左上には、TOKYO ASTRONOMICAL OBSERVATORY MITAKA TOKYO JAPAN とあり、裏には右下に 三鷹 東京天文台 と印刷されている。



写真1 「焦点を合わせるための厚板」が入っていた封筒の表裏
入っていた「焦点を合わせるための厚板」が写真2である。

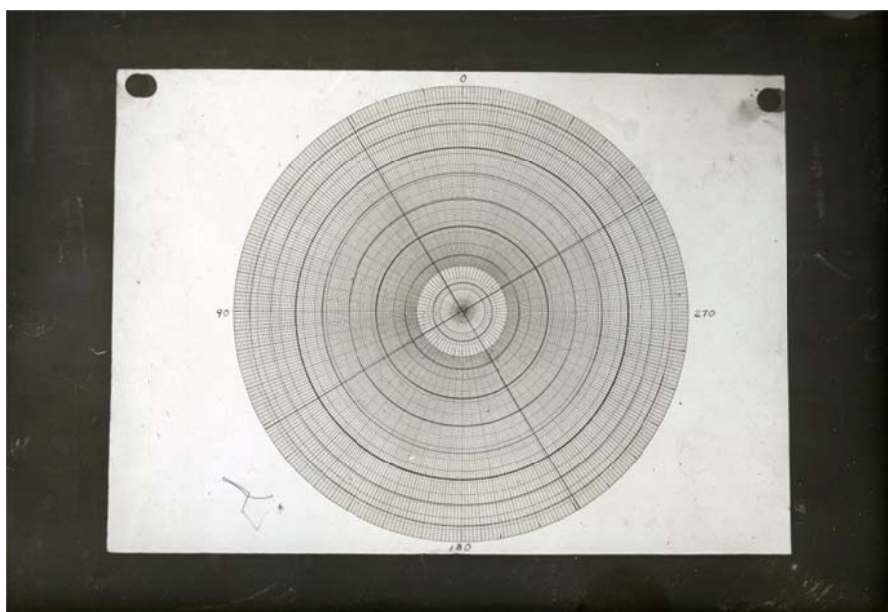


写真2 「焦点を合わせるための厚板」

大きさは8.2x11.8 cmである。手札判の大きさと思ったが、手札判は3.25×4.25in (8×10.5cm)であるから、それより幾分大きい。しかし、焦点合わせ板であるから手札判の写真乾板と同じ大きさであることが必要だ。これは明らかに複製品だから実際には使用され

なかったのかもしれない。実際に使用する場合には 8×10.5 mm に切ればいいのだが、経験から言えば 2 mm を切り落とすのはなかなか難しい。

オリジナルの判が黒枠の中だとすると 6.3×8.8 cm である。この部分を拡大すると写真 3 のようである。

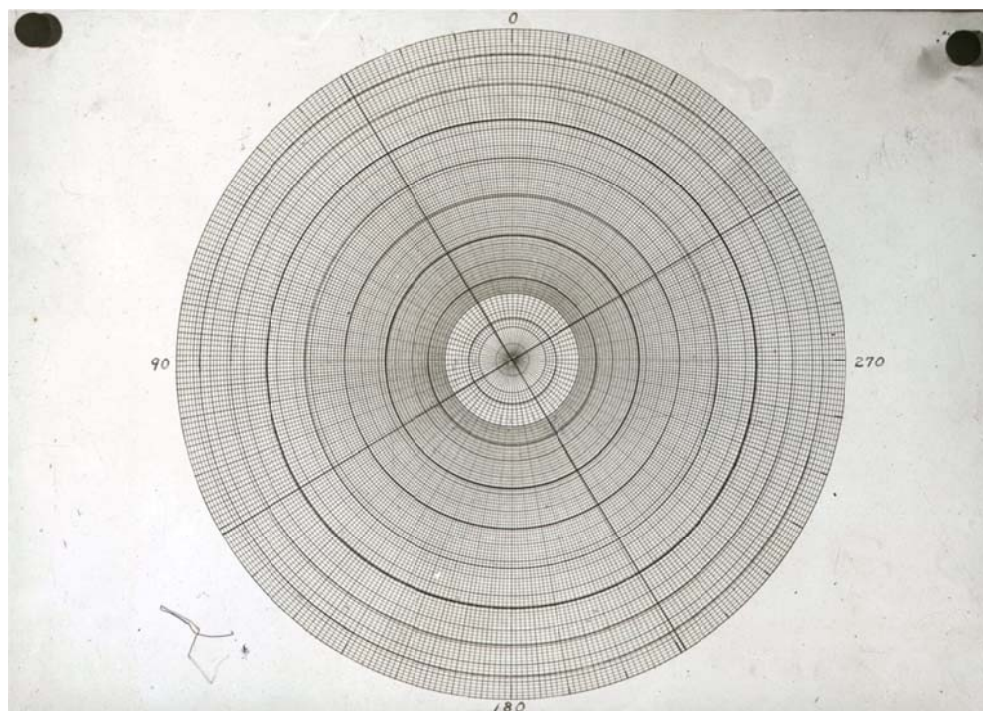


写真 3 焦点合わせ盤の目盛部分

これが、どの望遠鏡の天体写真の取枠（カメラ）に用いられたかは不明である。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp